

若手先端科学研究者の研究環境改革 (実施期間：平成 22～26 年度)

実施機関：群馬大学（総括責任者：平塚 浩士）

プロジェクトの概要

群馬大学における次世代リーダー養成システムのモデルケースとして、学長・副学長のリーダーシップのもと、医学系研究科、工学研究科等にテニュアトラック制度による新たな研究・教育人材育成システムを確立する。そのために必要なテニュアポストを予め用意し、国際公募および学外者を交えた公平性と透明性の高い審査システムによって、有為な人材をテニュアトラック教員として採用する。さらに、研究資金及びスペース面の援助、教育・研究面以外の負担の軽減、研究の独立性・自立性を尊重しつつ支援を行うメンター・アドバイザー制等の支援体制により、高いテニュア獲得率を実現する。本事業終了時には、テニュアトラック制度の全学への拡大を目指す。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	国際公募・選考・業績評価	人材養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人材養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	実施期間終了後における取組	中間評価の反映
A	a	a	a	a	a	a

総合評価： A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

先端医学・生命科学および先端工学分野において、若手研究者が国際的に卓越した教育研究を行う世界的研究拠点を構築することを目的として、若手研究者の自由な発想が活かされる教育研究システムを実現するために、テニュアトラック制（以下、「TT 制」という）の導入を図っている。既存の組織や研究体制の枠を超えた先端科学研究指導者育成ユニットを創設し、そこに YA (Young Ambitious) 教員として、高い倍率の応募者の中からテニュアトラック若手研究者（以下、「TT 若手」という）13 名を、公平で透明性の高い審査で選考していることは評価できる。十分な研究費の支援と自立した研究スペースを提供し、学内の教育研究活動に精通したベテラン教員のメンターと、研究分野が近く研究上のサポートを行うアドバイザーのカップリング・メンタリング・システムを活用した育成体制を確立している。公平で透明性の高い審査体制がとられ、厳正なテニュア審査のもとで、受審対象者全員が合格し、その中でもほとんどが昇任していることから、養成システムが適正であると評価できる。プロジェクト終了後に全学への普及・定着を図るため、「全学テニュアトラック普及推進室」を設け、TT 制による人事に一元的に取り組む姿勢が示され、その効果が期待されるが、学部、研究科による状況の違いなどを踏まえ、機関としての積極的なマネジメントが望まれる。

- ・ **目標達成度**：医学・生命科学と工学の先端分野で、優秀な若手研究者を育成する計画は順調に推移し、現在までにテニュア審査を受けた 6 名全員が自機関のテニュアポストを獲得して

おり、育成環境の整備の効果もあって、TT 若手が研究能力を発揮し高い業績をあげていることが評価できる。人的支援にも特長あるカップリング・メンタリング・システムを導入するとともに、海外の大学の学長クラスの TT 制に精通した研究者を顧問として招聘するなど、外部評価を活かしつつ、育成環境の整備が進んでいる。プロジェクト終了後も全学的に TT 制を展開する基盤を既に構築しており、群馬大学版と称する TT 制で若手教員・研究リーダーの養成が進むことを期待する。

- **国際公募・選考・業績評価**：国際公募は適切に行われ、約 16 倍の応募倍率の中、公平で透明性の高い多段階審査プロセスによって、優秀な TT 若手の採用に成功していることは評価できる。採択時の女性研究者への支援体制の充実や、自校率の抑制などの指摘にも適正に対応し、目標通りに女性、外国籍研究者を含む 13 名を採用している。採用された TT 若手も、質の高い研究成果を発表し、多額の外部資金獲得を達成しており、育成体制が適切であったと評価できる。特に、テニユア審査を受けた 6 名の TT 若手全員が審査に合格し、内 4 名が教授を含む上位職に昇格したことは、養成制度の適正さを示すものと評価できる。
- **制度設計に基づく実施内容・実績**：既存の組織の枠を超えた先端科学研究指導者育成ユニットを創設して育成環境整備を行い、リーダー育成のための制度をスムーズに動かせたことが良好な成果に結びついている。設計された TT 制は、公募・審査および年次・中間評価に外部委員を含むなど公正で透明性の高い形の制度であることが評価できる。これらの経験を、今後の群馬大学版 TT 制に活かすことを期待する。
- **制度設計に対するマネジメント**：統括責任者である学長のリーダーシップのもと、明確な実施体制が作り上げられており、求める人物像を明確にして TT 制を活かす人材養成システムが適切にマネジメントされている。メンターとアドバイザーのダブルサポート、さらには医学、工学の各チームに外国人研究者の顧問を配置して、教育能力の育成にも当たるなどのマネジメントがうまく機能したものと評価できる。プロジェクトの経験を活かして、終了後には全学展開するための必要施策を決定しており、PDCA サイクルを効率的に回していることは評価できる。
- **実施期間終了後における取組**：TT 制の効果についての理解も深まり、今後全学への普及・定着を図るために、本部に「全学テニユアトラック普及推進室」を、また、各部局に「学部等テニユアトラック普及推進室」を設置して、新たな組織のもとで一元的に取り組むことを決定しており、その効果が期待される。今後、学長のリーダーシップのもと、学部、研究科による状況の違いに配慮した適切なマネジメントを期待する。特に、支援予算の獲得とともに、若手に魅力的な公募の設計及び TT 制と既存組織との調和をどう進めるかなど、適切な対応が期待される。
- **中間評価の反映**：中間評価での、人文系を含む他部局への拡大や学長のトップマネジメントへの期待などの指摘に対しては着実に対応し、学長を統括責任者とする「全学テニユアトラック普及推進室」を設けるなど TT 制の全学展開の基盤を構築しており、今後の展開を期待する。